

大いちょう

R6年1月31日

岐阜市立加納幼稚園

園長 広瀬 みゆき

岐阜東幼稚園とのドッジボール対決がありました。



岐阜東幼稚園とのドッジボール大会。みんな楽しみにしていました。

当日の結果は1位 たいよう組 2位 さくら組 3組 いちょう組 でした。いちょう組の中には、悔し涙を流す子もいました。うれしい気持ち、悔しい気持ち、いろいろな気持ちを経験した子どもたちです。

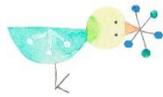
2園で交流もできたり、思いきり、力いっぱい取り組んだドッジボール対決。良い経験になりました。ドッジボール対決が終わっても、まだ、子どもたちのドッジボール熱は冷めていません。寒くても、毎日のように取り組む子もいます。行事が終わったからおしまい！というわけではなく、思いが継続して遊び続けているところが、幼稚園での生活のよいところですね。

大会前のいちょう組対さくら組の試合でも、年少さんや年中さんは応援団になっていました。「私、〇〇くんを応援しているの。だって、かっこいいから。」「〇〇ちゃん！頑張って！」などと、熱い声援を送っていました。年長児が一生懸命ドッジボールに取り組んでいる姿を見て、憧れの気持ちをもつ年少、年中さん。僕たちもやってみたい！ということで、年中さんがドッジボールを楽しむ姿も見られます。



「がんばれー！！」





年中さんのお散歩の姿から・・・

カモが出てくる絵本をきっかけに、年中さんが荒田川沿いにお散歩に行くことになりました。



荒田川のカモや鯉などを発見しては大きな声で「魚が見える!」「カモがいた!」「どこどこ?」「ほんとや!」と自分たちの目で、しっかり確かめていました。

すると、カモではない白い大きな鳥が・・・。

「あの鳥は何?」「あー、カモを追いかけてる!」

「カモを食べようと狙っているのかも・・・。」と会話をしていました。「なんていう鳥なんだらうね。」「幼稚園に戻ったら調べてみようか?」という、「うん、図鑑で調べてみる!」という

ことになりました。

帰り道、Aくんは「あー、調べるの楽しみ!」と言っていました。「調べたら、教えてね!」とお願いしました。その後、職員室に調べたことを報告に来てくれました。鳥の名前は「大鷲(ダイサギ)」で、食べ物は虫やカエルや魚など。カモを狙っていたわけではないことがわかりました。Aくんは、カモを狙われていたわけではないことがわかり、ちょっと安心したようでした。



調べるのが楽しみ!と思えるAくん。そして、ちゃんと調べたことを周りの人に伝えられることも素敵だと思いました。

Aくんは一人で調べたのではなく、そこには仲間の姿がありました。一緒に調べて、一緒に考え、伝えあう。遊びの中の学びを共有していました。



雪遊びをしました!



休園の翌日、子どもたちはたくさんの雪に大喜び。様々な雪遊びを楽しみました。雪だるまを作ったり、雪合戦をしたり・・・。先生が用意をした色水でかき氷を作る子もいました。色は混ぜずに作る子や、赤・青・黄色の色水をすべて使う子。様々でした。混ぜていた子が、黄色と青が混ざったら緑色になったことを発見。「赤も混ぜてみよう!」と試していました。

寒くなることを聞いていた子どもたちは、園庭のあちらこちらに水の入った容器を置いていました。

予想通り、凍っていたことに嬉しそうでした。凍らなかったところに「どうしてかな？」疑問をもったり、新たに「色水は氷るのかな？」と試したり。今も氷の実験は続いています。

このように、「どうして？」と疑問をもったり、「どうなるかな？」と試してみたりすることはとても大切なことだと思います。色水の氷はできるでしょうか……。楽しみです。



幼小連携推進事業 公開保育を行いました。

1月31日に、「幼小連携推進事業」があり、加納幼稚園が保育を公開しました。小学校や保育所、読私立幼稚園の先生方が保育参観、研究協議会に参加してくださいました。これは、幼児教育課が行っている事業です。今回は、水川教育長と、教育委員会の寺田教育統括審議官がおいでくださいました。

保育を参観していただいた後、グループ討議が行われました。討議では、「子どもたちが製作をしているときに、その子なりに工夫をしていた。」「先生が決めてしまうのではなく、必ず、子どもに決定権があった。」「小学校の生活科と同じように、自分の願いをもち、そこに向けて思考している姿が見られた。」「自分で考え、自立していた。」「今までの経験から、挑戦する姿が見られた。」などのご意見をいただくことができました。「継続して取り組む時間や環境が保障されていることがすごいと思った。」とも言っていたら、他の幼児施設の先生方に「岐阜市立幼稚園のような教育（保育）を目指しています。」と言っていました。教育長様からも「加納幼稚園の教育は、一人一人の子どもたちのストーリーをちゃんと大切にしていると感じました。」と言っていました。

後半では、中部学院大学教育学部の梅田祐介先生にご講演いただきました。「幼児期はわかるまでの過程を生きている。小学校（+大人）はわかった世界を生きている。」「幼児期も小学校も探究心が大切であること」「自発的な活動の中にも、しつけや自主性、社会性も大切」など、様々なことをお話していただきました。

このように、保育を公開していくことで、幼稚園の教育を知っていただき、私たち幼稚園側も、小学校の教育を知っていくことは「幼小接続」にとってとても大切だと感じました。

<2月の保育のわらい>

【3歳児】

- 先生や友達と一緒にいろいろなごっこ遊びを楽しむ。
- 先生や周りの友達に、言葉やしぐさで自分の思いを出して遊ぶ。
- 寒さに負けず元気よく戸外遊びを楽しむ。

【4歳児】

- イメージを膨らませながら、自分なりに表現することを楽しむ。
- 自分の思いを出したり、友達の思いを聞いたりしながら一緒に遊ぶ。

【5歳児】

- 自分の役割がわかり、意欲的に取り組む。
- 自分の思いを伝えながら、やり遂げていく喜びを味わう。

どのクラスも楽しみ会に向けて、劇ごっこや楽器遊びなどを楽しんでいます。学年により取り組みは異なります。その子らしい表現を大切にしていきたいと思います。